

ふるさと奥尻通信

平成29年11月30日
奥尻町教育委員会発行
事務局:01397-2-3890

海洋研修センターと稲穂ふれあい研修センターにて無料配布しています。奥尻町役場ホームページからもダウンロードできます。

巻頭言

北海道の全市町村に所在する遺跡を地図上で閲覧できる便利なサイトがあります。
「北の遺跡案内」[Http://www2.wagamachi-guide.com/hokkai_bunka/](http://www2.wagamachi-guide.com/hokkai_bunka/)

特集 島の近現代遺跡を考える

奥尻島内の遺跡(埋蔵文化財包蔵地)は32ヶ所が知られ、台帳に登録されています。これはネット上からも検索することができます。一方、まだまだ未発見の遺跡が多数あると想像され、開発工事や畑の開墾などで不意に発見される場合があります。

遺跡の定義として、過去の間活動の痕跡を「遺跡」とするならば、縄文人の住居跡や擦文人の貝塚などがその代表例となります。では、その時代の下限は何処に設定すれば良いのか、少々悩む時があります。例えば、夏にやったBBQのたき火跡は現代奥尻人の痕跡ですが、そこまで遺跡の範囲に入れてしまうと、際限なく広がってしまい、收拾がつきません。かつては江戸時代の所産も「遺跡」として扱われず、調査しないままに破壊していた頃がありました。現在では、文科省の指針として、近現代でも特に地域において重要なものは遺跡指定される傾向にありますが、何をもちて地域の重要性を位置づけるのか、まだまだ不確定な要素が多いままです。また、政治・軍事に係る事例ですと、関係国の思惑や政治情勢まで絡むややこしい事案となるのです。



荒天の幌内湾と浸食された浜



アワビの貝殻 刺突穴あり



ホタテの貝殻



ホタテの貝層と茶碗の破片(中央青い部分)

先史時代は別として、島の定住人口が大きく増えてくるのは、明治以降のことです。具体的な人口や産業についてもある程度は文献資料に残されており、後に編纂された『奥尻町史』や『新奥尻町史』に引用されています。それでも、出入りの多かった明治年間の出来事は不明確な部分が多く、島の発展の礎を築いた人々の時代については知らないことの方が圧倒的に多いでしょう。

先日、島の西海岸の幌内集落跡で、波に浸食されて姿を現した貝層を見つけました。層の厚みは20センチ位で、ホタテの貝殻がほとんどで、アワビや二枚貝の殻も少し混じっていました。ここは遺跡には登録されておらず、かと言って、縄文や擦文期のような貝塚とは思われず、どうも近現代の新しい貝塚のように見えました。島内でホタテの養殖が行われていたのは、最近では昭和60年代の前後で、それ以前となると、明治20年代後半にさかのぼります。石川県より渡ってきた宇宙長造(水田の試作をしたことでも有名)が、明治28年に島内で大規模なホタテ製造を始めたのです。当時の漁場は青苗、鴨石、仲浜で、途中火災で損害を被りながらも、多数の漁夫を動員して、豊漁の年は年額1万円もの利益を得たといえます。しばらくホタテは奥尻島の特産品となっていたのです。

もう一点、近現代の所産である証拠を見つけました。コバルトの青が鮮やかな日常雑器の破片です。この手のものは、明治期に流行った型紙摺絵で絵付けした皿で、特に「■旋記念」と書かれていることから、日清・日露戦争期の凱旋時の記念品として配られた物と思われます。明治中～後期の食器が貝層から出たことで、これらの貝殻は古くとも明治中期と言えます。



「■旋記念」皿の破片



浸食された砂浜と出現した貝層



青苗青年団が結成した海原楽団の面々です。昭和26年から36年まで在籍した増川喜代蔵先生が地元の青年たちと結成した軽音楽バンドでした。結成当初は遠隔地ということもあって、楽器の調達に苦労したそうですが、ヴァイオリン、アコースティックギター、ドラムを用意、他にもトランペットを1万円で、増川先生もクラリネットを2万1千円(7ヶ月月賦)で購入し、なんとか様になったようです。最初は楽譜も読めない段階からスタート楽団も、青年団の熱い志もあって大いに盛り上がり、青苗から奥尻へ遠征して演奏を披露することもあったとか。



学芸員オスマの一冊をご紹介します。本は海洋研修センター図書室で借りられます。

北海道の全魚類図鑑 尼岡邦夫ほか

北海道や付近の海、川、湖沼に棲む、いわゆる北の魚651種を網羅した図鑑。その形態、分布、利用に至るまで詳しく述べた良書。その魚の特徴が判り、魚釣りの際にも役立つ。似たような魚でも様々な分類がなされていることに驚かされる。そのほとんどが普段目にしないものばかりで、食用になる場合も、加工品の原料となっているものが多い。

月刊 奥尻のつり 11月号

11月、後半戦のメインシーズンです。が…毎週末に海が時化するという連日の荒天で、沖にも、西海岸の岩場にも出れず、島の太公望たちはだんだんイライラしてきております。もはやこうなれば、釣りの女神さまに嫌われたか、日頃のおこないが悪いかのどちらかでしょう。冬場のホッケは相変わらず姿を見せず、肉厚のクロガシラカレイもまだ早いようです。カジカは毎年期待を裏切りませんが、毎回調理法が同じだと飽きてきますね。中旬以降、マイカが急につき始めまして、イカ釣り船が盛んに出漁し、久々に漁火でまぶしい夜がしばらく続きました。年末まで続けば良いのですが、そうは問屋が卸さないのが業界の厳しいところ。水温の低下で、イカの群れはさらに南下していってしまうことと思われま

昭和奥尻生活詩 新谷清二の鳥賊つげ1ヶ月 第28回

釣石尋常小学校高等科二年生 文集「鳥の子」第八号より

てはコがたる生こ打のら余たた見かもず
来思ん、。懸んちだ、りと。詰な、。朝 七月
るうパ霧後俺命な上。霧騒言一めか尚尚起 二十
。がスのかもに霧げ一ががう度乍っ處もき 八日
、が為ら陸陸のた度深し様起らただ深て へ火
やあにももの深こ橋いいにき、。かか見 曜日
る一船方方いと谷のの亦た船船さった 〰
ばの艘が角に日がさでで寝俺を頭ったら
りでも来を目だあん陸眼てた動はば。ま
心大見る腕をっのがをしちかコリ何だ
配丈えのんやたた船見覚まはしん見処霧
に夫なだでっ。のがえまっ安てパ當をは
なだいろいて皆も磯なした心いスが見晴
っとう。いー、にいた。し をつてれ

ま年ベゴリ貞特サマしれ月
し寄た、のは設ルした、四恒
たりとトイ機コは。多、例
。たこんカ械ーン、今く五の町
ちろボ釣化ナ(イ年の日町民
が、、りさー英ンの町の民
懐当ヤ道れで会グニ民日文化
か時マ具るし話リュで程化祭
しをデ(前た教ツー賑で祭
ん知(ハの。室シ。わ行が
でるをネ手学ユカいわ十
いお並 釣芸のユカ 一

文化祭今年が目玉は?



藤田弘太郎です!

いなアさがて初だで好歳ま局中
つつうを、きめそ全青、し学途十一
ばたト日島てまう道年心た校採十一月
いらド々民、しで選で身。教用一月
楽、ア感のまてす抜すと函育とりより
し島がじ方だ。に。も館係なり
みの趣て々間引、選特に出にり新
た大味おのもつみば技ス身配、しい
い自でり心な越なればマの属教員
すで然暖まのいしさたバト三に委職
すをかす温でをんほスト十な事員
めく。かすし、どケな五り務が

オールド・ルーキー

のよさとんくは講長でたサ
に。つもでりス師とす(ル初
困実ば多すとバ役Aが(こ一
つ家り々がしラ。L)にンて
たに釣あ、やシネT)一回参
も鮮りに聞ベイイジら高で
で行荒取てすイア校終し
す。届け天れもね。のさ俵つみ
たせきいつゆ発ん谷たま
いでこたつ音が校のし

新米之記録(編集後記)

をしル国第り産査れ点貝岸ン
研、・ア、なしまがが幌リ、先日、
究人パラジ今がたしあ積内ツ、A
し類ースリ号らとた。とみの重海ーL
て学クカアの興こ。学の重岸さT
いる(セ州の特味ろ、芸情な岸つで
女古タナんとい近員報ががてホ
性学ーシはし発現寄いタら
で含にヨ元た見代現寄いタら
す。勤ナ々次との地せるテ西
務米 な所調ら地の海

新たな貝塚発見か?



来島記念スタンプ③